

平成27年千葉市教育委員会会議  
第11回定例会会議録

千葉市教育委員会

平成27年千葉市教育委員会会議第11回定例会会議録

日時 平成27年11月18日(水)

午後2時00分開会

午後4時00分閉会

場所 教 育 委 員 会 室

出席委員 委 員 長 中野 義澄  
 委 員 内山 英夫  
 委 員 和田 麻理  
 委 員 明石 要一  
 委 員 小西 朱見  
 教 育 長 志村 修

出席職員	教 育 次 長	森 雅彦	教育センター所長	池田 亘宏
	教 育 総 務 部 長	米満 実	養護教育センター所長	植草 伸之
	学 校 教 育 部 長	磯野 和美	生涯学習振興課長	増岡 忠
	生涯学習部 長	大崎 賢一	生涯学習振興課科学都市戦略担当課長	西村 安正
	参事兼企画課長	大橋美帆子	中央図書館管理課長	小池 幸江
	総 務 課 長	石野 隆史	総務課総括主幹	相楽 俊洋
	学 校 施 設 課 長	真田 賢一	学事課課長補佐	浅井 滋
	学校施設課学校環境改善担当課長	高橋 広文	文化財課課長補佐	芦田 伸一
	学 事 課 長	渡邊 博典	教育センター主任指導主事	大越 千明
	教 職 員 課 長	伊藤 剛	教育センター指導主事	桑原 恵美
	県費移譲課長	大野 治充	養護教育センター指導主事	山路 里美
	指 導 課 長	伊藤 裕志	生涯学習振興課主事	渡辺 裕之
	保 健 体 育 課 長	中村 宏		
書 記	総務課長補佐	三田日出美	総務課主任主事	高桑 太綱
	総務課総務班主査	大塚 暁	総務課主任主事	佐久間 暁子
	総務課経理班主査	岡 武史		

- 1 開会  
中野委員長より開会を宣言
- 2 会議の成立  
全委員の出席により会議成立
- 3 会議録署名人の指名  
中野委員長より和田委員を指名
- 4 会期の決定  
平成27年11月18日（1日間）ということで全委員異議なく決定
- 5 議事日程の決定  
議事日程を全委員異議なく決定
- 6 議事の概要
  - (1) 非公開事項の決定  
議案第114号及び議案第115号並びに報告第13号を非公開とする旨決定
  - (2) 報告事項  
報告事項(1) 平成28年度公立学校教員採用候補者選考（二次）受験状況について  
伊藤教職員課長より報告があった。  
報告事項(2) 平成27年度千葉市中学校音楽発表会について  
伊藤指導課長より報告があった。  
報告事項(3) 平成27年度千葉市中学校生徒会交流会について  
伊藤指導課長より報告があった。  
報告事項(4) 平成27年度全国学力・学習状況調査の結果について  
池田教育センター所長より報告があった。  
報告事項(5) 平成27年度前期ライトポート・グループ活動諸行事について  
池田教育センター所長より報告があった。  
報告事項(6) 長柄ハッピーキャンプについて  
植草養護教育センター所長より報告があった。  
報告事項(7) 千葉市科学フェスタ2015メインイベント及びサイエンスクラブアSEMBリーの開催について  
西村生涯学習振興課科学都市戦略担当課長より報告があった。
  - (3) 議決事項  
議案第113号 平成27年度末及び平成28年度公立学校職員人事異動方針について  
伊藤教職員課長より説明があった後、審議。全委員異議なく、原案どおり可

決した。

議案第114号 平成27年度補正予算について

高橋学校施設課学校環境改善担当課長及び増岡生涯学習振興課長より説明があった後、審議。全委員異議なく、原案どおり可決した。

議案第115号 指定管理者の指定について

増岡生涯学習振興課長より説明があった後、審議。全委員異議なく、原案どおり可決した。

(4) 臨時代理報告

報告第13号 県費負担教職員の処分について

伊藤教職員課長より報告があった。

(5) 発言の要旨

報告事項(1) 平成28年度公立学校教員採用候補者選考（二次）受験状況について

中野委員長 教職員課長、報告をお願いします。

伊藤教職員課長 報告事項(1)「平成28年度公立学校教員採用候補者選考（二次）受験状況について」、報告します。

8月の下旬の2週間にわたり、教員採用選考の第二次選考を実施し、その結果につきましては、本人宛てに10月15日付で発送しております。また、県教育委員会のホームページにおいても合格者の受験番号を掲載させていただきました。

二次の合格状況についてでございますが、全体で1,811名が合格し、全体倍率としましては4.1倍でした。これは、昨年度の4.12倍より0.02ポイント低くなっております。個々の学校種や教科ごとの合格者数や倍率につきましては、そちらにある資料でご確認ください。

なお、本市における来年度の採用予定数でございますが、小学校が147名、中学校が107名、特別支援学校が14名、養護教諭が7名を予定しております。1人でも多くの優秀な人材を確保できるように努力したいと考えております。

以上でございます。

中野委員長 それでは審議に移りますが、質問等を含め何かございますでしょうか。では、よろしいでしょうか。

報告事項(2) 平成27年度千葉市中学校音楽発表会について

中野委員長 指導課長、説明をお願いします。

伊藤指導課長 報告事項(2)「平成27年度千葉市中学校音楽発表会について」、

説明します。

10月28日、29日、30日に平成27年度の千葉市中学校音楽発表会を行いました。本発表会は、情操教育の一環として市内の全中学校及び市立養護学校の参加により開催する音楽会で、今年で47回目を数える歴史ある行事でございます。全参加校が6つのグループに分かれ、京葉銀行文化プラザの音楽ホールで行いました。

参加校は、千葉市立中学校55校、市立養護学校1校、計56校となっております。1日目は午前中9校、午後9校、2日目は午前9校、午後10校、3日目は午前9校、午後10校の計56校で行いました。

内容につきましては、中学生の代表による開会の言葉で始まり、全員合唱、参加校の演奏へと進みました。全員合唱では、前半に「千葉市歌」「夢の世界を」を、後半には千葉市のイメージソングである「心の飛行船」と「大地讃頌」を全員で歌いました。

「千葉市歌」につきましては、千葉市民としての誇りを大切に、歌い続けていけるよう、中学校を中心に指導しております。

「夢の世界を」は教科書にも掲載されている曲で、8分の6拍子の比較的平易な合唱曲です。発声練習も兼ねて行っております。後半に合唱する「心の飛行船」は千葉市のイメージソングです。全体講師の指導の後に「大地讃頌」を全員で合唱しております。平和の尊さを歌った組曲であるカンタータ「土の歌」の最終曲で、全員合唱を楽しみにしている生徒も多いそうです。豊かでダイナミックな響きがホール全体に響き渡りました。

演奏の内容につきましては、参加56校のうちの52校が合唱の発表でした。そのうち47校は、学年学級での参加です。ほとんどが3年生の参加です。校内での合唱コンクールの結果、その代表が出場するということもありますので、やはり3年生の実力が充実していると思われれます。

小規模校のために全校で参加したのは1校、それから部活動有志による参加が7校でした。また、吹奏楽やマーチングドリル、ジャズ演奏、地域の方々のお手伝いをいただいたお囃子、沖縄の民族舞踊なども発表されました。

多く演奏された曲目は、1位は全員合唱でも取り上げられている「大地讃頌」、次に「ふるさと」「流浪の民」「証」と続きました。私たち世代にもなじみのある曲も多く、すばらしい曲はい

つの時代でもその輝きを失わないことを感じました。歌詞の内容にメッセージ性のある楽曲も取り上げられていて、多感な時期の生徒たちが自分の思いを歌に乗せて、心を込めて歌う非常にすばらしい姿が見られました。また、自分の学校の校歌を発表した学校も2校ありまして、生徒が校歌を通して愛校心というものを持っていることについて感心いたしました。

発表会の後には、参加した生徒によるナイスハーモニー賞の投票があり、各グループで2校ずつ、12校に授与しました。

最後に、今年度の統合校である花見川中学校は、それぞれの出身中学校の制服を着用しての参加でしたが、聞いている私たちには、生徒全員が一つになって合唱をしているということがよく感じられました。花見川中学校の音楽主任からは、合唱コンクールへの取り組みで、生徒同士のきずながさらに深まったとの言葉を聞いております。歌の持つ力というものを実感しました。

以上です。

中野委員長 では、審議に移りますけれども、質問等を含めまして何かございますでしょうか。

和田委員 私も聞かせていただきましたけれども、大変すばらしかったです。聞いている中で2回ほど涙がこみ上げてきました。今まで何度か聞かせていただきましたけれども、聞く態度もすばらしかったのがとても印象的でした。今までちょっとざわついたりということもあったのですが、それもなく、本当に集中していて、音楽というものが千葉市の子どもたち、中学生にも浸透していると感じました。

1点感じたのは、中学生の行事ということで保護者の方がそれほど、小学生に比べるとやはり参観が少なく、客席も少し空席がありました。一般の市民の団体でコーラスの団体などたくさんあると思いますので、もし可能であれば、そういった方たちに周知していただき、聞いていただいて、中学生も頑張っているのだということをお知らせしてもよいと思いました。

小西委員 私も今回、初めて参加させていただいて、Bグループを鑑賞しました。和田委員と一緒に、大げさではなくて、鳥肌が立ったりと、涙が出そうぐらい感動しました。

和田委員と同じ意見で、小学校の音楽発表会を見に行ったときには、保護者の方が入れかえ制であふれていたのに対して、こちらのほうは座席の空きがたくさんあったので、保護者の人数と会

場のミスマッチが何とかならないのかなと感じました。

あと、個人的に、ナイスハーモニー賞ということで合唱のほうは、表彰はされると思うのですが、各学校でピアノ伴奏の子も2、3名それぞれ出ていると思います。その子たちは、自分たちの時間を犠牲にしてものすごく練習をされてきたと思うので、可能であれば、ピアノ伴奏の子たちにも何らか賞を授与してもいいと感じました。

伊藤指導課長 私も参加して、子どもたちのすばらしい姿を、多くの方に見ていただきたいという思いを持ちました。ただ、一般的に公募しますと、警備等安全配慮の面もありますので、先ほど和田委員が言われたように、市民団体の方、誰かわかっている方であれば、そういったことも可能なのかなとは思っています。

ただ、やはり保護者への学校からの呼びかけというのは大切だと思いますので、学校に声をかけていきたいと考えます。

ちなみに、ナイスハーモニー賞ですけれども、和田委員と小西委員が参加いただいたBグループにつきましては、花見川中学校とおゆみ野南中学校がハーモニー賞を受賞しました。

それから、教育長が参加されましたCグループにつきましては、みつわ台中学校と川戸中学校、内山委員が参加されたEグループにつきましては、葛城中学校、幕張中学校が受賞しました。Aグループは末広中学校、花園中学校、Fグループにつきましては白井中学校、幸町第二中学校と報告を受けております。

以上です。

内山委員 私は30日に行きました。28、29日は小学校の陸上競技大会がありましたので、残念ながら30日、最後の日でした。非常に感心して、何といいましょうか、本当にうまいな、上手だな、やはり学校の代表だと思いました。

それから思ったのは、みんな気持ちを合わせて同じ行動をする、一緒に歌うということ、ハーモニーを奏でるということ。これは、体育祭もそうですけれども、いじめだとかは、どこにあるのだろうかという感じです。みんな一生懸命やっていますし、こういう試みをどんどん続けていっていただきたいと思います。

それともう一つ、中にはプロ級の演奏がありましたね。これはもう非常にすばらしかったですね。ああいう才能のある子どもっているのだなと感心しました。ありがとうございました。

志村教育長 先ほどの保護者の件ですけれども、今年会場が変わった関係

で多分案内が難しかったと思います。しかも会場が狭い関係で、2日だったのを3日に延ばしていますから、音楽関係の職員が今年はかなり苦勞したと思います。会場のつくりが違い、しかも2階は、せりのところは座らせられないようにするとか、配慮が必要だったので、今年は運営も含めて保護者の参加も難しかったと思います。

来年は、予定では市民会館に戻り、これまでと同じように2日開催となりますので、そうなれば、少し様子も違ってこようかと思っています。今の話については、学校に伝えます。

中野委員長 それでは、よろしいでしょうか。

### 報告事項(3) 平成27年度千葉市中学校生徒会交流会について

中野委員長 指導課長、説明をお願いします。

伊藤指導課長 報告事項(3)「平成27年度千葉市中学校生徒会交流会について」、説明します。

11月5日、各中学校の生徒会活動を充実させるために、千葉市教育センターにおいて千葉市中学校生徒会交流会を実施しました。本交流会には、市長、教育長、教育委員の皆様を来賓にお迎えし、全市立中学校の生徒会長と生徒会の担当教員が参加しております。

開会行事では市長から、本交流会を通して、自治の始まりである生徒会活動を行っていく上での悩みや課題について共有するとともに、それぞれが工夫して実践していることを自分の学校に取り込んでほしいこと、また市長が神戸に居住していた少年時代の経験から、自治活動や若者からの提言の重要性を感じているという趣旨のご挨拶がありました。

その後、生徒会活性化アドバイザーである中央大学の特任准教授の高橋亮平氏により、「世界一の生徒会へ ～世界の先進的な生徒会の状況と、生徒会活動の可能性～」というテーマで今回は講演を行いました。

講演につきましては、事前に行いました千葉市内55校の生徒会の実態調査の分析結果や、スウェーデンを中心としたヨーロッパの生徒会活動の状況についての話があった後、千葉市の中学校生徒会活動の活性化のための提言等がなされました。また、18歳選挙権の実施に向けての生徒会活動を中心にした自治意識の醸成の必要性についても、話が及びました。



その後、「世界一の生徒会を考える」というテーマで、ワールド・カフェという新しい方法でグループ協議を行いました。参加した生徒は、生徒会長・役員50名を初め、全員が生徒会役員であり、活動への意欲が高く、活発な意見交換が行われました。協議の途中からは、生徒と教員とが一緒にグループをつくり、ともに協議を行いました。子どもたちは、自分の学校とは違う先生と話す機会だったので、活発な話し合いとなりました。

今後は、本交流会の内容を深化させるために、生徒会情報交換会を1月に実施する予定です。また、相互の取り組みを参考にできるように、キャビネット上で互いの活動を公開し、それぞれの生徒会活動に役立てていくようにしていきたいと考えております。

以上です。

中野委員長 それでは、審議に移りますけれども、質問等を含めまして何かございますでしょうか。

和田委員 私も参加させていただきましたが、今回、顧問の先生方のグループでの話し合いというのが行われましたので、先生方が悩みを共有できたり、意見交換もでき、もっと言えば愚痴も言い合うようなところもあったりと、一歩進んだ感じがいたしました。先生方の話し合いは初めてだったと思いますので、そこからもう一歩進んだところにはいかないと、なかなか生徒会が活性化するところまでにはいかないと思いました。

先ほどもご説明がありましたけれども、学校ごとの非常に詳しいアンケート結果もいただきました。拝見するとやはりなり手がいないというのは、PTAとかボランティア活動と同じで、中学校の段階でもこうなのかと思いました。昨年度の報告ではありますけれども、立候補者が事前に学年職員や顧問から声をかけているというのが89%にも及ぶということで、なかなか自発的に子どものほうから手が挙がるという状況にはないのかと、ちょっと寂しくはありました。学校のいろいろな友達との兼ね合いとかはあるのだと思いますけれども、ちょっと寂しいなと思いました。

ただ、全体として、今までよりも子どもたちも先生方も活発に意見が交換できており、来年1月にも開催されるということですので、これが発展していき、もっともっと交流が深まり、学校内での活動も活発になって、ほかの生徒たちの理解も深まっていけばよいと思いました。

明石委員 まず、最初に質問を2つ。

この生徒会交流会は第何回でしたか。先程の合唱コンクールみたいに何回かあるとわかりやすいのです。

伊藤指導課長 後ほど確認してお伝えします。

明石委員 後で結構です。聞きたかったのは、市長が言っている子ども議会がありますね。あれは6年目になりますよね。それと並行してやってきたのか、それとも、その前からやってきたのかが知りたかったので聞きました。

もう一つは、前回の教育委員会で、10年未満の先生方が44%いると言われましたよね。生徒会顧問の先生の平均年齢は何歳なのかというのを知りたい。

ということは、先ほど和田委員が言われたように、多分若い方は全く知らない。そうすると、そのノウハウを持っていなくて、それで悩んでいるかもしれない。生徒会が活性化しないのは、いろんな事情もあるかもしれないけれども、顧問の先生といいたいでしょうか、その先生方のスキルアップは教育センターでどうやっているのかというのが知りたいです。

教科指導は中学校の教師はうまいのだけれども、部活以上に、生徒会顧問のなり手が多分ないと思うのです。部活動は成績が上がりますからやりやすいけれども、これは成果が見えにくい。

伊藤指導課長 1点目の子ども議会との関係ですけれども、子ども議会とは並列してやってきております。ただ、それ以前も子ども議会は中学生議会というのがございました。生徒会交流会につきましては、もう一度調べてまた報告したいと思います。

それから、顧問の平均年齢は把握しておりませんが、私の見た感じでは、やはり若い先生が多いと感じました。若い方がどんどんやる気になっているということもありますので、顧問同士の情報交換を通して、互いの悩みだとか、情報交換を通して生徒会活動について考えていくことは、大変有意義だと考えております。

明石委員 実は、千葉大も20年前は春祭と秋祭の2回学園祭があったのだけれども、20年前から春祭ができなくなったのです。実行委員会が成立しないから。秋は何とか頑張っている。

もう1点は、昔の学生自治会が35年前から消えました。大学生のときに、教育学部でも文学部でも、学生自治会のことも経験していない方がそのまま教員になりますから、どういうふうに集団をつくり意見を表明するかという指導を、自分も体験していな

いし、大学も残念ながらやってこなかった。だから、そういう方が来ることを前提に教育センターのこれからの研修内容を組み入れてほしい。ぜひお願いしたいです。

もう一つは、この協議内容の中にいじめ撲滅運動を生徒会がどうすればできるかということです。東京都品川区が、もう3年目に入るのですけれども、ずっと学校と家庭と中学生の生徒会で、いじめ撲滅運動をどうやればいいのかと話し合っています。

先ほど内山委員が言われたように、あれだけいい合唱のハーモニーができるのだけれども、そうでないところではやはりいじめは、悔しいけれども起こるのです。先生方もやっておられるのだけれども、生徒会が提案して、主導していじめをなくそうということをやっけていかないと救われないというのがありますので、それをひとつ協議会で検討していただきたい。これはあくまでも要望です。

2つ目は、去年も言ったかしれませんが、少年の主張というのに、千葉市もやっ出てくるようになりましたけれども、みんな意見表明するチャンスもないし、なかなか手を挙げない。「中学生の主張」というのを県と国でやっけていて、今回、1月8日には全国大会でも決まりましたから、そういうのを生徒会がどう取り組んでいくのか、18歳の選挙権に向けての課題なんていうのも講師の先生がしゃべってくれていますけれども、自分たちの意見表明をどうするかという学習を生徒会が主導でやっけていただけるといいと思います。その辺も何とか協議の内容に入れていただければと思っけて意見を申し上げました。

以上。

中野委員長 私は、去年は出たのですけれども、幾つかの学校の生徒会から、いじめのことは取り上げていました。自分たちでいじめをなくそうという学校が、3校か4校あったと思っけました。

和田委員 1点補足ですが、みんなでの話し合いの中で、自分の学校の取り組みを積極的にPRしようと思っけて、校内で配っているチラシとか、自分たちの取り組みを他校に紹介している生徒が何人かいました。ほかの子どもたちが、「ぜひそれをうちでも」とか、「それ、すごくいいね」ということを言っけていましたので、今回時間が余りとれなかつたので、そういう取り組みを積極的に持っけてる学校が、発表するような場があつても良いと思っけました。

中野委員長 そうですね。去年、打瀬中学校では、1年生が入っけると、

それを読めば部活からいろんなことがわかるような、全部一冊にまとめたしおりをつくっているというのを聞きましたけれども、今年も同じようにそのようなものがあったのですね。去年もそのグループの中でのアピールをして情報交換するようなことは言っていましたが、全体ではなかったです。あるといいかもしれませんね。

内山委員 私も出席しまして、和田委員と同じような意見ですけれども、ワールド・カフェ、これはおもしろい方法だと思いました。どういう場で使えるかというのは考えていかなければいけないですけれども、私も勤務先で随分管理技法を学びましたけれども、これは初めて聞きました。なかなかおもしろい生徒がいました。特に先生方と生徒と一緒に交流してやる場面もありましたので、これは子どもたちにとっても非常によかったのではないかと思います。ありがとうございました。

明石委員 要望なのですけれども、先ほど和田委員が出席されて、データをもらいましたね。事務局にお願いしたいのは、たくさんの資料は要りませんが、アンケートとかエビデンスになるのは欲しいです。貴重な55校のデータが上がってくるわけでしょうから。

内山委員 全部上がってきていますよね。

明石委員 これからはやはり委員に、全員が出席できないのですから、そういう基礎的な資料としては欠席の方にも回していただきたい。こういうのは、やはり喉から手が出るほど欲しいです。

志村教育長 今回の資料は、大人向けの資料だと思います。今回は子どもたちが、どちらかという自分の学校の状況を積極的に話すという形ではなくて、どちらかという、この講師の先生の指導によるレクチャー的な感じがあったため、本当に自分たちの学校の切実な悩みとかそういうものが出てくるような機会が少なかったと思います。

そうした点で、その手法を学ぶことはできたかもしれないけれども、子どもたちが今切実に悩んでいることについてどの程度発言できたかということが問題です。先生と交流することによって、委縮しないとはいいいながら、やはり子どもは先生の意見に対しては幾らか遠慮するでしょうね。

だから、そういった意味で今回初めてこういう手法でやったため、いいところもあったけれども、改善しなくてはいけないとこ

ろもたくさんあったし、次回の1月16日に、それを経験した子どもたちがどんなふうに変まっているかということを確認して見ていかない限り、ここでは結論が出せないという感じがしました。

今までこういう形で講師を立てて、いわゆるワールド・カフェ的にやることはなかったですから、そういう面では新しい手法だと思いますが、そのためには回数が必要だろうと思うし、子どもたちが余計忙しくならなければいいと思います。例えば区ごとにやるとか、もっと身近なものについてみんなで協議するとか、そういうことも必要なだろうという感じを私は持ちました。

ただ、ああいう経験というのは確かに今足りないでしょう。むしろ先生方があの方法を研修してほしいという感じではあります。

中野委員長 一応、その資料はいただければと思います。

志村教育長 資料を見ると確かに傾向はわかります。会長は、意外と選挙で選ばれていないのです。信任で選ばれているということ。ただ、子どもたちはそれを見てそれが当たり前だと思っているでしょうから、これから時間をかけて直していかなければいけないと思います。18歳選挙も近いので、やがて自分たちが選ばれる立場になるということがあろうかと思っています。そういった意味では、非常に参考になる数字が示されていたと思います。

中野委員長 それでは、よろしいでしょうか。

では、次に移ります。

#### 報告事項(4) 平成27年度全国学力・学習状況調査の結果について

中野委員長 教育センター所長、説明をお願いします。

池田教育センター所長 報告事項(4)「平成27年度全国学力・学習状況調査の結果について」、説明します。

本調査の目的については、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てること、さらにそのような取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することにあります。

今年度の調査は、4月21日(火曜日)、市内小学校112校、中学校55校の小学校6年生及び中学校3年生の全児童生徒を対象に行われました。

教科に関する調査としまして、国語、算数、数学はそれぞれ、「主として『知識』に関するA問題」と、「主として『活用』に関するB問題」、理科は「主として『知識』に関する問題」と、「主として『活用』に関する問題」があわせて出題されました。

また、児童生徒の学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する質問紙調査、及び学校における指導方法に関する取り組みや学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する学校質問紙調査をあわせて実施しました。

調査結果につきましては、文部科学省から8月25日に公開され、各学校には翌日結果が送付されています。

本市の小学校6年生、中学校3年生の学力の状況は、国語、算数、数学、理科の全ての教科でA問題、B問題ともに全国及び千葉県の前年正答率を上回っており、おおむね良好の状態を維持していると考えられます。これは、本市の「わかる授業」を目指した取り組みの成果の1つであると言えます。

校種別に結果を見ますと、中学校では国語のB問題のみ全国平均正答率との差が縮まり、その他では全て向上が見られています。しかし小学校では、算数のB問題以外は、全国平均正答率との差が縮まっている傾向が見られます。

また、各教科のA問題、B問題の平均正答率の相関分布図を見ますと、基礎的な知識の定着と活用力の間には相関関係が見られます。特に、中学校の数学ではそれが顕著に見られています。

次に、児童生徒への質問紙調査の結果を見ますと、小学校6年生、中学校3年生ともに、学校の授業時間以外に1日当たり2時間以上学習する児童生徒の割合が全国平均より高く、学習に対する意識が高いと言えます。しかし、その一方で、全く勉強しないという児童生徒は、小学校では3.8%、中学校では6.9%見られ、二極化が懸念されます。

また、地域の行事に参加しているかという設問では、昨年度と比較して向上が見られますが、まだ全国平均より低いという課題が見られます。

本市では、昨年度と同様に結果概要の公表を行うとともに、今後各学校に対してはCabinetイントラ版で教科ごとの結果概要と指導改善に向けたポイントを示していく予定でございます。

教育センターと指導課では、この結果を共有し、学校への計画訪問・要請訪問等の機会を捉え、今回の分析結果を活用した指導

助言を行うことで「わかる授業」を一層推進し、児童生徒一人一人の確かな学力の育成を図っていきたいと考えております。また、今後、教育センターで行う研修にも役立てていきたいと考えております。

さらに、各学校においては、校長のリーダーシップのもと、校内の組織を活用し、自校の調査結果を十分に分析するよう指導してまいります。その際、全国学力・学習状況調査を活用した学習指導のポイントや、年間のP D C Aサイクルを提案した教育センターでの研究成果や、課題解決のための具体的な方策を示した文部科学省からの授業アイデア例などを活用し、職員全体で取り組んでいくことを提案してまいります。

今回、顕著な学力向上の成果があらわれている学校への調査からは、校内研修として、全職員で全国学力・学習状況調査の問題を解き、分析を行い、全校体制で帯時間の学習を工夫したり、ノート指導や家庭学習の指導を全校で足並みをそろえたりするなどの取り組み事例が報告されていることから、今後、各学校へ学校全体としての活動を強めるよう助言してまいります。

また、地域、保護者や学校評議員に対しては、各学校のホームページや学校だより、学校評議員会等の場を活用しまして、それぞれの学校の成果や課題、指導改善に向けた取り組みについて周知を図るよう努め、各校のよさを積極的にアピールし、課題についても地域、保護者とともに考えていける体制づくりを働きかけていきたいと考えております。

以上でございます。

中野委員長 それでは審議に移りますけれども、質問等を含めまして何かございますでしょうか。

明石委員 質問ですけれども、この非常に貴重な資料は、学校の校長先生とか教頭先生にはみんな伝わっているのでしょうか。それとも、ホームページをダウンロードすれば出てくるのでしょうか。

池田教育センター所長 ホームページのほうにも当然掲載されますけれども、概要版というような形で各学校にそのエッセンスを示し、イントラ版の方も活用しまして、各学校に働きかけていきたいと考えております。

明石委員 この2年間で非常に顕著な推移があった学校の特徴、名前は別ですが、やっていることをみんな共有できれば、「そうか」という、これは貴重なデータなのですね。こういうことをさまざま

やっていますよね。一つではなくて、多分学校の実情に合わせたことをやっていると思うのです。研究主事の先生方がこういうのをデータに基づいてディスカッションしてくれるともっと広がっていくなという、そういう意味でお聞きしたいのです。やはり非常にいいヒントで、ベースには家庭の経済的な力もあるのでしょうけれども、学校の力、教員の力があって、このようにやってくれているというのは元気が出るかなと思います。忙しい中何とかしていい情報を伝えるという工夫をやっていただけると、助かるかなと思いました。

小西委員 意見ですけれども、非常に細かくて見やすくありがたいのですが、その上で申しわけないのですが、質問紙調査結果概要ってありますよね、3番目。これが全国との比較、千葉市との比較になっているのですけれども、教科別結果概要と同じように、千葉市の中での年度別の推移というのも載せていただくことは可能でしょうか。そうすると、千葉市の中での推移がわかって、課題とか成果というのが見やすくなるかなと思いますけれども。

池田教育センター所長 今ご指摘いただいた点につきましても、経年変化が比較できますので、今後そのような形で公表するような方向で検討させていただきたいと思います。ありがとうございます。

和田委員 ちょっと本筋とはずれてしまうかもしれないのですが、質問紙調査というのは、子どもに対する質問がとても多いのです。これに答える子どもはとても大変だろうなと思います。質問の内容も、大人の考えた質問、問いですから、大人はわかるのでしょうか、子どもにとって一体どういうふうに解釈しているのかと。

これは千葉市に申し上げてもしょうがないことだと思うのですが、特に気になったのは、「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか」と「同じくらいの時刻に起きていますか」で、これは真夜中の1時に毎日寝ていても「はい」ということになるわけで、それが規則正しい生活というふうに解釈していいのかなとか、多々疑問に思うところがありました。こういった質問調査の質問に関して、例えば文科省とかに要望を出すということはできないのですか。

池田教育センター所長 教科調査官等、いろいろな場でお会いする機会がございますので、その辺についての議論をしてみたいと思います。

中野委員長 いかがでしょうか。よろしいでしょうか。



それでは、次に移りたいと思います。

報告事項(5) 平成27年度前期ライトポート・グループ活動諸行事について  
中野委員長 教育センター所長、説明をお願いします。

池田教育センター所長 報告事項(5)「平成27年度前期ライトポート・グループ活動  
諸行事について」、説明します。

初めに、教育センターでは、学校への不適應を起こしている児童生徒に対して、学校生活への適應を目指し、系統的・段階的指導・援助のサポートプログラムをもとに支援をしております。その中で、子どもたちがたくさんの人とのかかわりやつながりを持って、適應力や自己肯定感を高め、ライトポートやグループ活動の連携を図るために、ジョイント事業を計画的に実施しています。

それでは、前期ジョイント事業について報告いたします。

まず初めに、ライトポート・グループ活動のジョイント・ハイクでございます。ジョイント・ハイクは各ライトポートとグループ活動をつなぐ第一段階の行事として位置づけています。

この活動では、科学館での展示・ワークショップの参加・体験を通じて、科学に親しむ心を育てるとともに、集団での活動を通して児童生徒の親睦を図ることを目的としています。昼食後の交流活動は、子ども交流館アリーナで実施し、「つなぐ」「かかわる」というねらいに迫ることができました。

次に、スポーツフェスタについてです。スポーツフェスタは平成18年度より始まった行事で、今年度が10年目となります。

スポーツフェスタは、スポーツを通して各ライトポート・グループ活動間の交流を深め、ジョイントキャンプへの意欲化につなげることを目的としています。子どもたちはさまざまな活動を通して、各ライトポートやグループ活動に所属するメンバーを仲間であると認識を変容させています。

続いて、第1回長柄ジョイントキャンプについてです。このキャンプは、豊かな自然の中で、さまざまな体験活動を通して不登校児童生徒の自主性・社会性を育み、学校生活への復帰を手助けすることを目的としています。

初日は、出会いのゲームで参加者同士のかかわりから始まりました。初めは緊張の面持ちでしたが、徐々に表情がやわらかくなり、子どもたちは打ち解けていきました。

2日目は、小麦粉を使った創作料理、ロゲイニング、キャンド

ルサービスなど、さまざまなプログラムに挑戦しました。テーマである「自然の中で、発見、自分、仲間、そしてチャレンジ」を意識し、この目標達成に向けて取り組みました。仲間と協力することの大切さや、ともに活動することの楽しさを十分に体験できた一日となりました。

最終日は、活動の振り返りを行いました。参加児童生徒の振り返りカードからは、今まで気づけなかった自分のよさを発見し、人とかかわり合うことの楽しさや大切さを学ぶことができたキャンプとなったことがわかります。友達から認められることで自己有用感を持ち向上心が芽生えたことは、大きな成果だと思います。

今年度は、各行事の前後の子どもたちの気持ちの変容を確認するため、質問紙による調査を行いました。アンケートは35項目あり、この項目はそれぞれ、仲間、向上心、信頼、自主性、思いやり、問題解決能力等と対応しております。共通の質問紙を使うことで、事前事後の変容を確認できることに加え、各行事間の比較変容も確認できます。

参加児童生徒の事後調査では、全てのジョイント行事で、実施後に精神的な高揚感や満足感等がありました。また、スポーツフェスタでは、実施を通して向上心や自主性が上昇しました。長柄ジョイントキャンプでは、実施を通して、信頼、向上心、協力が上昇しました。

3つの行事の事後調査の比較を見ますと、ジョイントキャンプ実施後に大きな変容があることがわかります。キャンプの3日間で仲間のことをよく知ることができ、初めて会った友達とかかわり、過ごしていくことで、思いやりの気持ちや信頼感、協力できる、協力したい自分を見つけることができたのではないかと思います。一方、問題解決能力について他の2つの行事より下回っているのは、活動内容が決められたものが多かったことが背景であると考えます。

後期もたくさんの人とかかわりやつながりを持って、一人一人の適応力や自己肯定感が高まるように、計画的にジョイント事業を実施してまいります。

以上でございます。

中野委員長 それでは、審議に移りますけれども、質問等を含めて何かございますでしょうか。

明石委員 ちょっと質問ですけれども、ジョイント・ハイクというのは何の略なのでしょうか。「ハイク」というのは歩くことですか。

中野委員長 昨年までは合同遠足と言っていたと聞きましたけれども。

明石委員 これを見ると遠足はしていないですね。当初は遠足とかはあったのでしょうか。

池田教育センター所長 昨年度まで、ここは遠足という名前でやっていましたが、ジョイント行事で統一して、「ジョイント・ハイク」という形で名前を今年から変えさせていただきました。

明石委員 非常に貴重なデータで、こういうのはめったにないのです。ハイクとスポーツフェスタとキャンプをやっていますよね。この3つを同じ子どもを対象にやって、こういうデータが上がったというのは、私の知る限りでは、非常に千葉市は頑張ってくれている。それで、ハイクというのが、見たらハイクはしていないから、ワークショップをやっているのに何でハイクなのかと思ったのです。

そこで質問ですけれども、今回のジョイント・ハイクの参加者は51名です。それで、フェスタが44名で、キャンプは38名で、キャンプは13名減っているのです。非常にキャンプの数値がいいのはわかるのです、2泊3日で。そのときに、参加していない13名は、集団生活になじめなくて参加しなかったのか。要するに、13名の集団はどのようなタイプのお子さんで、だから、悪く言えば、13名がいなかったから数字が伸びたのか、逆に大変なお子さんだけでも伸びたのかという、そのキャンプの効果を解釈するのに、全体の中で13名が消えているのです。消えているというか、この中に入っていないのです。もしその13名のお子さんのタイプが、児童生徒がわかれば、非常にこれは貴重なデータになるかなというふうに感じたので。

池田教育センター所長 ジョイント行事については、それぞれ参加率が高いもの低いものということであるわけですが、今ご指摘いただいたジョイントキャンプにつきましては、そういう心理的なものから参加できないという子どもも考えられるのですが、実はバス代・食費等が、中学生が8,500円、小学生は8,200円が自己負担になりますので、参加希望制の行事ということもありまして、それぞれのご家庭の判断もあろうかと思えます。

中野委員長 どちらなのかは、はっきりはわからないわけですね。経済的な問題なのかわかりませんが。

池田教育センター所長 すみません、つけ加えでございますけれども、13人という中に、真砂中の相談指導教室のほうに行くとか、いわゆる学校復帰に一步近づいたといいたいまいしょうか、そういうお子さんたちもいるということで、単に心理的に行けなかったという子どもももちろんいるでしょうけれども、むしろ一步進んだという子どももいるということでございます。

明石委員 どこかで文章を書くとき、指摘されたときに、この妥当性を言われたら困ると思ったので。非常に価値あるデータで、ありがとうございました。

和田委員 ちょっと確認ですが、ライトポートにグループ活動も含めて所属している生徒は今、全部で何人でしょうか。

池田教育センター所長 子どもたちのほうのいわゆる通級者等については、月ごとに統計はとっているのですけれども、各行事の参加をした時点での参加率ということでちょっとお話しさせていただいてよろしいでしょうか。

ジョイント・ハイクにつきましては、通級者57名に対して、今回51名が参加ということですので、参加率が89%でございます。

スポーツフェスタにつきましては、全体で通級者が60名に対しまして44名が参加しておりますので、参加率は73%。

第1回のジョイントキャンプにつきましては、先ほどもありましたけれども、通級者全体として70名に対して38名が参加しておりますので、参加率が54%ということで、ここでちょっと低くなっておりますが、その間に、先ほど申しましたように、途中で真砂中指導教室に行ったという子どもも入っております。

小西委員 細かいことになってしまいますけれども、3つのジョイント行事を通しての児童生徒の変化のグラフの見方で、これは事後の数値が多分記載されているかと思うのですが、ジョイント・ハイクだったら事前と事後でどういいう変化があったか、スポーツフェスタだったらどういいう変化があったか、ジョイントキャンプだったらどういいう変化があったかと、個別にグラフにさせていただくと、その一つ一つの行事で、どれがどのぐらい上がったのかというのが見やすくなるかなと思ったので、そのあたり工夫を検討していただければなと思いました。

池田教育センター所長 後期のほうのジョイント事業はたくさんあります。その際にもやはり調査をとっていく予定でございますので、今ご指摘いた

だいた点について留意してまいりたいと思います。

中野委員長 よろしいでしょうか。

それでは、次に移りたいと思います。

#### 報告事項(6) 長柄ハッピーキャンプについて

中野委員長 養護教育センター所長、説明をお願いします。

植草養護教育センター所長 報告事項(6)「長柄ハッピーキャンプについて」、説明します。

それでは、キャンプの担当、山路と報告をさせていただきたい  
と思います。よろしくをお願いします。

報告事項(6)になります。長柄ハッピーキャンプについてご  
説明いたします。

そのキャンプは、通常の学級に在籍するLD、ADHD等、発  
達障害のある小学生のための宿泊体験ということになります。秋  
休みの10月9日から11日の2泊3日で参加してまいりました。平成17年度から実施し、今年で11回目となります。平成  
24年度からはLD等通級指導教室、これは小学校では各市に1  
つずつあるのですが、こちらと連携して共催行事となっております。

目的は、発達障害等のある児童を対象に、集団生活を通して社  
会性を向上させ、もともとの在籍校、通常の学級での適応力を高  
めることを目的にしております。

参加児童は、養護教育センターで行っているグループ活動に参  
加している3、4年生と、先ほど言いました各区にあるLD等通  
級教室の3、4年生の希望者38名、計45名で参加してまいり  
ました。

主な活動内容としては、表のとおりですが、ウオークラリー、  
カレーづくり、これは仲間とつくるという作業です。クライミン  
グウォール、ペンダントづくり、そしてキャンドルサービス、ク  
イズ大会などを通しての活動をしてまいりました。

活動の一つ一つの狙いを明確にし、一人一人の子どもに目標を  
持たせるようにしております。集団活動を通していろんな場面で  
社会性を学ばせているわけなのですが、例えば集団で集まるとき  
には静かに待つ。こういうことを一つ一つかみ砕いて教えてやる  
ことが必要な子どもたちという前提で、こういうことをやってい  
ます。

また、食事は好き嫌いなく食べるという、当たり前のことかもしれませんが、中にはご飯しか食べない子、いわゆる色を見ると茶色しかない子というのがいますので、そういうことを子どもたちに、この機会を通してこういうのも食べてみる、「何々ちゃん、食べてるよ」ということも通じながら学ばせていくということになります。

また、自分のことは自分でやる。これも当たり前のことなのですが、荷物はそのまま散らかしっ放しのお子さんも何人かいらっしゃいますので、そういう中で整理をすることを覚えさせるとか、また、人の周りで荷物を散らかすとみんなに迷惑がかかるのだよということも含めてやっているということでもあります。

また、みんなのためにも自分がやるということで、「ありがとう」という言葉をお互いにこの機会に言いましょうということで、このキャンプの3日間、「ありがとう」をいろんな場面で使う、そしてうまくいけなかったら「ごめんなさい」という言葉を使うということで、3日間を活動させて、体験させてございます。いろんなことに挑戦し成功体験を積むということで自信をつけさせるということが大きな狙いとなりました。子どもたちは、サポートを受けることによって、多くの成功体験を積んで自信をつけたのではないかなと思っております。

この期間中は、写真のように和田前委員長、内山委員初め、各在籍の学校の校長先生等がたくさん参観に来られ、子どもたちを励ましていただいたところでもあります。本当にありがとうございました。

今回で11回目を迎えたキャンプなのですが、子どもたちは年々落ちついて参加しているというのを、私は今年初めて参加したのですが、古くからいる指導主事におきましては、本当に最近落ちついてきているという感想を持ったようです。この要因としましては、通級指導教室が非常に定着してきたということと、教室の中でキャンプを意識して課題や目標を絞り、日ごろからそのことを伝えていったということが成果なのかなと思っております。

また、キャンプの中で、集団で決まりを守ったり、話し合い、協力して活動したりする中で、自信をつけていく姿がたくさん見られました。キャンプでつけた力を家庭や在籍校での生活に生かせるよう、それが課題かなというふうには思っております。

保護者と子どものほうに、キャンプの前と後のアンケートをと

っております。小学校3、4年生ですから全てが確実ではないのですが、アンケート結果から児童、保護者とも、できるようになったことがふえたということを感じているようです。

子どもたちから、もっと泊まりたいと。このキャンプで初めて親元を離れて泊まった子もかなりいます。通常の学校でも5年生からが宿泊体験になりますので、それより前倒しで3、4年生を行かせるというのは、在籍校の学校の5年生でうまく適用できるようにという目的を兼ねて3、4年次を対象にやっているということでもあります。「友達と仲よくできた」「来年はキャンドルサービスの発表をがんばりたい」「友達と泊まるのは大変だったけれども、また来年も行きたい」と、満足感が得られた感想がたくさんありました。

保護者の皆様からも、「みんなと一緒に参加することができてよかった」「自分で荷物をまとめられてよかった」「ありがとうと言えるようになってびっくりです」「帰宅後、家の手伝いを進んでやるようになった」などの肯定的な感想をいただきました。

今後もこのキャンプの成果を生かし、センターでのグループ活動、また通級指導教室の指導を充実させていきたいと考えております。

どうもありがとうございました。以上です。

中野委員長 それでは、審議に移りますけれども、質問を含めまして何かございますでしょうか。

いらしている人の感想をお願いします。

和田委員 今、お話にもありましたけれども、私も何回か伺った中で、一番子どもたちの状況が落ちついていて、決まりどおりに行動したり、友達と話をしたりということが自然体でできていたので、やはり順々に成果があらわれてきているということかなというふうに思いました。

宿泊ですので、本当にご苦労が多いと思いますけれども、事故もなく子どもたちは満足で帰ってこられて、本当によかったと思います。ありがとうございました。

内山委員 私も何度か参加しまして、毎年子どもたちの様子を見るのですけれども、こういう試みをされますと、非常に子どもたちも生き生きとしてやっているなという感じがします。

一つお伺いしたいのは、これ、11回も続けており、大変ではないかと思うのです。どういう方がどのくらい時間をかけてやっ

ているのか、ちょっと教えてもらえればと思います。

植草養護教育センター所長 4月から普通教室、そしてグループ活動をスタートしますので、毎月というかそういう定期的集まりながら準備するとともに、担当指導主事が各学校との連携をとりながら、ほとんど5時以降の活動になりますが、そういう準備をしてもらっているところがあります。

中野委員長 ありがとうございます。

ほかによろしいでしょうか。

それでは、次に移らせていただきます。

#### 報告事項(7) 千葉県科学フェスタ2015メインイベント及びサイエンスクラブアセンブリーの開催について

中野委員長 生涯学習振興課科学都市戦略担当課長、説明をお願いします。

西村科学都市戦略担当課長 報告事項(7)「千葉県科学フェスタ2015メインイベント及びサイエンスクラブアセンブリーの開催について」、説明します。

生涯学習振興課でございます。2つの内容がございますけれども、続けて報告をさせていただきたいと思っております。画面のほうをご覧くださいいただければ助かります。

まず第5回になりますけれども、千葉県科学フェスタ2015についてです。これはメインイベントと呼ばれているものでございます。10月10日(土)、11日(日)、いずれもきぼーるで行っております。

今回、5回目ということで、サブテーマですけれども「新しい風」ということで、柱を3つ主に設けて行ったというのが特色かもしれません。

1つ目は、より幅広い世代を意識したような出し物、ブース等ですね。そんな中で、後でちょっと出てきますが、未就学児を対象にしたり、または中高生にどちらかというところを当てた、そういったようなもの。

それから2つ目は、企業との連携をより深めるということで、「千葉オンリーワン企業と身近な科学」ということで、県内の企業の方を招いたもの。

それから3点目としては、最新の科学技術とのかかわりということで、「ペッパー」という感情認識ロボット、それからドローンですね。それ以外にも、水素エネルギー、それから炭素繊維、そういった講演会等も入れたのが今回の特色でございます。



ここにはございませんけれども、もう1点、やはり5回目になりましたので、準備する立場からしても、いろいろなノウハウの蓄積、それから効率化が進められたなと思っております。後ろの背面パネルの数も、昨年度ご意見いただきまして、今年は2枚にしてあります。見通しがよい会場になったのではないかなと思っております。

それでは、次、来場者等についてですけれども、今年度、天気の部分で言うと曇りの天気で、それが一番よかったのかもしれませんが、最高の来場者数になりました。1万7,691人ということで、少しずつ、徐々にではありますけれども、来場者数はふえております。

それから、土曜と日曜の関係です。これは昨年度も同様ですけれども、土曜に対して日曜が倍ぐらい。やはりこれは報道機関とのかかわりがあるようでして、1日目でそれを報道してくださったり、またはニュースにしていただけますと、それで次の月に来ようというようなことになるのではないかと考えております。

それから、最新の科学の紹介ということで、先ほども出てきましたけれども、感情認識ロボット「ペッパー」です。ティッシュを配ったり、または会話を楽しむということで、今回は2台用意しましたけれども、これが今回のフェスタの中で最も印象に残ったものだというアンケート結果でございます。

それから、最新の科学に関するものとして、ドローンの講演会ということで、千葉大学の野波先生の講演等をいただいたりしたのもあります。

続きまして、当日の様子ですけれども、今回、副市長に開会、開幕式のご挨拶をいただきました。その後、教育長賞、科学館賞ということで、総合展の中で優秀な自由研究作品を出品した生徒、14名になりますけれども、の表彰式を行い、さらに、科学館賞を受賞した10名については、実験室のほうで発表会を行いました。今回、この発表会は大変質の高い発表会ができたということで好評いただきました。

それから、SCグランプリと呼んでおりますけれども、サイエンスコミュニケーション・グランプリです。実際には、これはフェスタの閉幕式の中で決めているものですが、最も人気のあったもの、それから主催者側として選んだもの、そういうことで表彰を行ったときのものがございます。

続きまして、幅広い世代を意識してということで、写真で紹介いたします。

1つは、小さなお子さんが写っておりますけれども、未就学児を対象にした「suna・suna」という、比較的新しい、手が汚れないようなクリーンな砂場になります。今まで未就学児を対象にしたブースというのは考えていなかったもので、新しいところです。

それから、市立千葉高校は高校生のブースがございました。これもやはり非常に好評でして、さっきのサイエンスの賞の中に入ったものの1つでございます。常に人でいっぱいです。

それから、「科学者への道」というのがありますけれども、これは若手の研究者、博士号を取って数年ぐらいの方をお招きして、それで今の自分の生活、または現在のお考え、そういったものをお話しする、または質問するようなものでしたけれども、やはり中高生からは非常に好評でした。対象としては限られているものですが、今までは中高生に焦点を当てたというものはなかったもので、そんなような取り組みを行いました。

それから、千葉の企業との連携ということで、千葉県内のすばらしい技術等をお持ちの企業をお招きしてやったものもあります。このスポーツ車椅子というのも1つです。県内のメーカーがつくっている競技用の車椅子、そんな体験なども行いました。

アンケートの結果についてご紹介いたします。

昨年度と大きく変わっていないところと変わったところがございますけれども、まず、フェスタをどこで知ったのかということですが、実は今年度も、これは昨年度も同じですが、昨年度以上に各学校に配ったチラシというのがアンケート結果としては最も多くなりました。あとについては、ほぼ同様な感じでした。

それから、来場者の性別ですが、昨年度に比べると男性がちょっとふえたかなという感じがしてはいますが、四分六ぐらいで女性の方のほうが多いということです。これは、お母さんが小学生を連れてくるというようなパターンが多いことかと思えます。後で年齢とのかかわりがあると思えます。

それから今回、どこから来られたのかということで調査しているものですが、昨年度に比べて市外が5%ほどふえております。それで、昨年度まで、市外といってもどこなのかということアンケートしていなかったのですが、今回、あえて千

葉県内の周辺の市は全部書き出したもので回答していただきましたので、非常に幅広く隣接の地域から来られているということもわかりました。それから、その他というのが、これも非常に幅広く、他県、都内いろいろありました。そういったようなことも新たにわかったことでございます。

それでは、年齢の部分です。先ほどとかかわりがありますけれども、今年度も小学生の親子だなと思われる部分がやはり多い状態です。ですので、30代、40代のお母さんと小学生のお子さんというような傾向がやはり多い。これは同じ傾向になります。

ただ、今年ちょっと違うなというのは、先ほどの「科学者への道」と同じなのですけれども、いわゆる中高生に焦点を当てたようなものを入れています。その中高生が昨年度まで皆無状態だったのですが、少し増えているという傾向がございます。

それから、また参加したいかという部分ですけれども、今回は「参加したい」「進んで参加したい」というのが100%でした。そういう意味では、楽しんでいただけたと思っております。

それから、フェスタですけれども、過去に参加したことがあるのかどうかということを探ねたところ、したことがあるが4割、参加したことがないが6割でしたから、やはり科学フェスタというのはこれを行うことによって、新たな科学に対する喚起という意味では効果があるのではないかと考えております。

それから、来場者として誰と来たのか。ここは、実は内側が昨年度、外側は今年度ですけれども、ほとんど変わっていません。ですので、家族でという方が圧倒的でして、大体4分の3はそういうふうになっております。

フェスタにつきましては以上でございますけれども、もう一つの部分は第3回になりますけれども、サイエンスクラブアセンブリー、科学部大集合に関してです。

これは、フェスタの翌週の土曜日、教育センターをお借りしまして、9時半から3時ぐらいまで行ったものです。今回、7中学校で、教員を含めて66名の参加でした。これにつきましては、昨年より若干少ないのですけれども、ほぼ同数でした。教育センターの講堂は、およそいっぱいになるような感じでした。

内容について、概要だけ紹介させていただきます。

今回、科学館の館長、それからボランティアさん3名に光速の測定実験というのをやっていただきました。理科室のほうにあら

かじめセットしておいていただいたもので、光の速さをはかるということで、地球を7周半、およそ30万キロですけれども、この間の結果も29万9,000キロちょっとで、非常にいい結果が出たということです。

それから、発表会だけではなくて、午後にかけて、いろいろな自作したもの、それから、各学校の実験を提案するというような形のものを取り入れました。附属中がやっている「エアホッケー」ですけれども、板のように見えますけれども、その黄色い板には無数の穴があいております。そこからエアが出ています。

それから、各中学校の中で簡単に取り組める工作と実験というように、有吉中の写真が載っております。

アンケートの結果ですけれども、これにつきましては昨年度とほぼ同様ですが、やはり「とても楽しかった」、それから「楽しかった」で95%以上です。実際には、「そうでない」と答えた子は1人、2人でした。それで、しかも、ためになったということです。

今回、大高館長のほうで相対論の初歩に当たるもののお話をしていただきましたけれども、非常に真剣な様子で子どもたちは聞いていたなと思っておりますし、今回、科学館のボランティアさんに3名入っていただいて、実際にこの装置等を組み上げていただいたところの結果が載っております。

まとめの部分ですけれども、サイエンスクラブアセンブリーのほうも今回で3回目となりました。およそ課題と成果の部分が見えてきたところがございますので、ちょっと整理いたしました。

やはり、サイエンスクラブアセンブリーを行うことによって、ほかの学校の科学部の活動の様子が見えますから、それが大変参考になる、ヒントになるというようなことが感想の中にもあります。それから、やはり他校の様子で自分たちも刺激を受けるようなところがあります。

それから、新たに見えてきていることですけれども、この中で火星ローバーコンテストに取り組んでいる学校がやはりあるのですけれども、火星ローバーコンテストに部活動で取り組むというスタイルのものが出てきていますので、そういう行事とのかかわりがちょっと見えております。

それから、やはり単純に工作や実験については非常に興味があることなので、研究発表以外のものも含めた形というのが非常に

求められている感じはしています。

課題の部分、真ん中の部分で三角をつけてあるところですけども、これが私たちも課題と感じているところです。

1つは、参加するのだけでも発表していない学校があります。いたし方ないところがあります。新しく顧問がかわって、顧問の先生が、サイエンスクラブアSEMBリーで何をするかよくわかっていないので、実際のところはやはり参加だけとりあえずさせてくださいというようなスタイルのもの。

それから、やはり部活動ですので、顧問が移ってしまうと盛んな部活が移動してしまう。そんなような傾向もあります。やはり、顧問の先生の部分、または力量の部分が大きくかかわっていることがわかっております。

それから、このサイエンスクラブアSEMBリーはいわゆる科学部を対象にしておりますので、今、千葉市内14校にしか科学部がないのです。そこのところが、やはり事業の対象として限定しているところがちょっと苦しいところでございます。

最後になりますけれども、表彰に関して今回整理をさせていただきました。個人研究発表に対しては、科学館のほうから、館長さんまたはボランティアさんのご意見等で決めていただきました。個人研究の発表に対して科学館賞、それから、いわゆる部活全体としての活動状況に対して、市教委または科学教育推進連絡協議会のメンバーのほうで優秀賞、奨励賞のほうを出させていただきました。

以上でございます。

中野委員長 ありがとうございます。

それでは、審議に移りますけれども、質問等を含めまして何かございますでしょうか。

内山委員 2つとも、回を重ねるごとに内容が充実していくなというふうに感じました。フェスタのほうは、私は、ちょっとほかの行事がありまして、さっきのハッピーキャンプを含めてですけども、午前中の参加しかできなかつたのです。個人的には、非常に残念に思いました。すばらしい企画なので、これはぜひいろんな市民の方に見てもらいたいなど、こういうふうに感じました。

それから、サイエンスクラブアSEMBリーのほうですけども、私もやはり子どもたちは非常に熱心に研究しているなど。それから、今お話がありましたように14校しかないというのが非常に

寂しい感じですね。これはちょっと何とか頑張ってもらいたいなと。

それと、顧問の先生の、何といたしますか、指導力といたしますか、あれは非常に大きいのですね。もちろん、科学に関心のある先生がやっていると思うのですけれども、私の関係している陸上競技でも、吹奏楽の担当が陸上の顧問になったというのがいらっしゃるのですけれども、それでもほかの学校の先生方と一緒になれば、だんだん覚えてきて指導力も高まるという感じがします。そういった意味で、顧問の先生方の交流といたしますか、そういうものもあっていいのではないかという気がします。

私も、やはり大高さんが光の速度、これを実験で見せていただきまして、私も随分年ですけれども、生まれて初めて見たのです。すばらしい精度です。2997が、2994でしたか、1,000分の1の精度ですね。大高さんご自身も、こんな精度が出ると思わなかったとおっしゃっていましたね。

それと、私、これは半分冗談なのですが、アインシュタインの相対性理論が間違っていたという本が22年前に出たのです。これはおもしろいなと思ひまして、八重洲ブックセンターで見たのですけれども、それを買ひまして読みましたけれどもね。

そういった意味で、子どもたちにとって非常に勉強になったなと思ひます。ありがとうございました。

明石委員 私も感想を一つだけ。

一番うれしかった、今の説明で、市外の方が35%。私はほとんど市内と思っていたら、35%というのは、市長にぜひ言ってくださいよと。もっとお金をつぎ込まないとだめだと。これだけ市外にもPRしているのだから。これはすごいことですよ。ぜひ、意見として。

和田委員 とてもわかりやすいご報告をいただきましてありがとうございました。まずはお礼申し上げたいと思ひます。

科学フェスタのほうですが、私は今回、科学館賞作品発表会をずっと拝見させていただきまして。本当にすばしかったです。今回はまださほど回を重ねていないので、会場も小さいところでしたけれども、もっと大きいステージを与えてあげたいなと思ひました。それぞれが恐らくかなり準備をして、小学校1年生から中学生まで発表していましたが、本当にすばしかったので、プレゼンテーションをするという意味でも、今後発展してい

ってほしいなというふうに思いました。

それから、幅広い世代にアピールできるということが今回とても特徴的であったというので、これも今後ますます期待ができるなと思いました。

一方で、毎年申し上げていることなのではけれども、どうしても家族連れが多くなってしまいうので、家族で興味がない子どもたちにどうやって周知していくか、その子どもたちをどうやって来るようにするかというのが大きな課題になってくると思います。これも毎年申し上げていますけれども、例えばいろいろな青少年育成団体などがありますから、そういったところにもっと早くから働きかけて、子どもたちを団体で連れてきてもらえるようなことをしていくとか、こども未来局などと連携してここを進めていっていただければと思います。

サイエンスクラブアセンブリーに関しては、科学部14校ということで、参加校が7校だということで半分なのではけれども、この残りの7校に関しては、例えば来るだけでもいいからというような働きかけで、少なくとも全部来てほしいような気がするのですが、このあたりは難しいでしょうか。

西村科学都市戦略担当課長 確かに、科学部のある全中学校にご案内しておりますし、基本的に言えば発表を聞くだけでもいいですというアナウンスになっています。ですけれども、やはりいろいろな時期的なものもございまして、ちょうどいろいろな、授業参観ですとかバザーのような学校行事との重複であるとか、また、部員が中3しかいないとか。そうすると、秋になるともう1、2年がいなくなってしまうとか、やはりいろいろな状況が重なっているというのが苦しいところでは。ただ、そういった呼びかけとか働きかけはしていきたいと思っております。

小西委員 一言、私も感想です。小学生以下の5歳と2歳を連れていきましたが、本当に楽しませていただきました。工作教室をやったのですけれども、ほかのイベントにもいろいろ工作教室はありますが、この科学フェスタはどんぐりのやじろべえとかをつくっているときも、ちゃんと「どんぐりの種類にはこういうものがあったね」とか、「カブトムシがいる木というのはこのどんぐりなんだよ」とか、ミニ理科の授業をしている感じで、教え方もとても上手で、子どもの関心を引くような形ですばらしかったので、今後もぜひこの形で、回数とか期間もできるだけ、予算の関係もあ

ると思いますけれども、本当にたくさんやっていただきたいたいと思うぐらいすばらしかったです。ありがとうございます。

西村科学都市戦略担当課長 では、今の件等につきましても、事務局の会議がございますので、そんな中で紹介させていただくという形にします。

中野委員長 では、よろしいでしょうか。

それでは、次に、議決事項にかかわる審議に移ります。

### 議案第113号 平成27年度末及び平成28年度公立学校職員人事異動方針について

中野委員長 教職員課長、説明をお願いします。

伊藤教職員課長 議案第113号「平成27年度末及び平成28年度公立学校職員人事異動方針について」、説明します。

本件は、千葉市教育委員会組織規則第8条第4号の規定により議決を求めるものであります。本年度の異動方針は、昨年度の人事異動方針と大きな変更点はありませんが、一部文言の修正の見直しを図っております。

「第1 一般方針」、4の表現についてでございますが、「障害者については、障害の内容や程度に十分配慮しながら、積極的な配置に努める。」という一文を、「障害のある職員については、十分に配慮した人事配置に努める。」と改めました。ほかの部分については、昨年度と同様であります。

人事異動につきましては、学校組織の活性化を図るとともに、各学校における教育活動の一層の充実・発展を図るための基盤となる条件整備であるというふうに認識しております。各学校や職員の実情等を十分把握して、適正な配置に努めてまいりたいと思います。

なお、今後の予定についてでございますが、12月1日（火曜日）に、全校長を対象としました人事異動方針説明会を開催した後、年が明けまして1月7日からの教育長面接、1月20日より3回に及ぶ校長等の管理主事面接などを通しまして、本格的に人事異動事務を進めていく予定であります。

以上でございます。

中野委員長 ありがとうございます。

それでは、審議に移ります。質問等を含めまして何かございますでしょうか。前年と大きな変化はないということでありましてけれども、ないでしょうか。



明石委員 基本的にこの原則はよろしいので、いいと思います。

それで、お願いなのですがけれども、平成29年から千葉市に人事権が来ますよね。先ほど申しましたように、10年勤務未満の方が44%いて、中間層が少なくなっている。そうすると、将来的に主幹教員とか教務主任とか教頭を、意図的に試験的に若手に抜てきするようなことをしていかないと、あと7、8年してざっとやめたときに困るかなど。非常に大胆かもしれませんが、いま少し検討していただくと、すぐには難しいでしょうけれども、試験的にやっていただくとか。

そうすると、急には難しいから30代の人を、教育委員会の指導主事とまでいかななくてもいいから、委員会で鍛えて外に出すという、やはり委員会というのはしっかりしていますから、ここで管理的な能力を全市的な視点で見てもらおうといいかなという、そういう意味での、教員人事もありますけれども行政との人事交流も含めて、すぐには難しいかもしれませんが、そういうことを見据えてやっていただければと。要望です。

磯野学校教育部長 今のご意見については同感でございます。教育委員会の現状から申し上げますと、若い先生方の人材育成に向けては、研修を見直していかなければいけないというのが、まず、第一にあります。29年に向けては、長期研修や海外派遣も含め、いろいろと研修体系の中で、どこのステージに応じて研修をやっていくかということがまず求められる。

今年の千葉市の平均年齢は、小中合わせてついに40歳を切り、39.8歳です。そういう状況で、小中の一番若い教務主任は38歳です。ですから今後、45歳というふうなことを考えていましたけれども、当然それではもういかないので、かなり若い状況になってきます。これについては適切な人材育成を図っていかなければいけないというところの中で、研修の充実を進めていきたいと考えています。

さらには、行政に関しましては、私どもが今考えているのは、やはり53で校長にしないと教育行政がもたないという状況がありますので、何とか53歳の校長先生をつくって、現場へ出てまた教育行政に戻していろいろな形でやっていただくという形も一方では考えていかないといけない。

中学校のほうは小学校よりも4、5歳高齢化が進んでいますので、中学校のほうは今後5年間を見据えて若返りをどんどん図っ

ていかなければいけない状況があります。小学校は逆に若返り過ぎていますので、今度はどうやって人材を活用していくかということがまた難しい。今後、県費移譲課のほうでも、その辺も含めて教職員課と連携した中で人材確保を。

最終になりますが、この中にもありますように、女性管理職の登用ということで、昨年度大分早まったのですが、ダイバーシティ・マネジメントの問題もあります。女性の3割登用というのが国のほうから示されている中で、量から質に変わる中での3割という数字が出ていますけれども、千葉市も女性のほうは、校長は17%と増えてきましたし、教務主任に至っては29%ぐらいいます。小学校の教務主任となる女性はかなり増えています。

ただ、この中から、いつも教育長が言われているように、家庭の環境状況とかいろいろなことが加味されてきますので、全てがうまくいくわけではありませんけれども、その準備は着々と進めておりますので、いろいろな面でまたご示唆いただければと思います。よろしく願いいたします。

中野委員長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、ほかにご質問もないようですので、議案第113号「平成27年度末及び平成28年度公立学校職員人事異動方針について」を原案どおり可決したいと考えますけれども、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。（「異議なし」の声）

ご異議ないようですので、原案どおり可決いたします。

中野委員長 それでは、次に第144号にかかわる質疑に移りますけれども、以降の審議につきましては非公開となりますので、傍聴人の方は退出をお願いいたします。

（傍聴人等、退出）

中野委員長 それでは、改めて審議を再開いたします。

議案第115号 指定管理者の指定について

委員長 議案第114号「平成27年度補正予算について」は、議案115号「指定管理者の指定について」に関する補正予算を含む議案であることから、先に議案第115号の議案の審議を行い、その後議案114号の審議を行いたいと思いますが、よろしいでしょうか。（「異議なし」の声）

委員長 ご異議ないようですので、順番を入れ替えて審議いたします。

議案第115号「指定管理者の指定について」、生涯学習振興課長、説明をお願いします。

生涯学習振興課長 議案第115号「指定管理者の指定について」、千葉市生涯学習センターについてご説明いたします。

本議案は、千葉市生涯学習センターの指定管理者に公益財団法人千葉市教育振興財団を指定するよう市長に意見を申し入れるため、千葉市教育委員会設置組織規則第8条第6号の規定に基づき議決を求めるものでございます。

1の「施設の名称及び所在地」、2の「指定管理者の名称等」につきましては、記載のとおりでございます。

平成28年4月1日から平成33年3月31日までの5年間でございます。

4の「選定経過」についてですが、選定に当たりましては、千葉市生涯学習センターの指定管理者の選定を、公募ではなく非公募とするため、平成27年市議会第2回定例会における千葉市生涯学習センター設置管理条例の一部改正の議決を経て、本年7月及び10月の2回、教育委員会指定管理者選定評価委員会にて説明及び審議が行われたところでございます。

7月の選定評価委員会では、選定要綱、管理運営の基準、選定の基準などについて、事務局からの説明及び選定評価委員からの意見徴収を行い、8月にその結果を踏まえた選定要綱などを交付いたしました。

その後、10月14日に開催されました選定評価委員会で、指定管理予定候補者の選定に関する審議が行われ、その結果に基づき11月6日に答申があったものでございます。

5の「非公募とした理由」につきましては、過去の公募状況を見ると民間企業等からの参入意欲が少ないこと、これまでの管理実績及び利用者からのモニタリング調査の結果が良好であること、外郭団体の事務事業の見直し結果において、生涯学習センターの管理運営事業には高度の専門性及びボランティアや各種団体等との豊富なネットワークが必要であるため、外郭団体の有する特性や担うべき役割等を踏まえ、千葉市教育振興財団を非公募で選定すべきとの方向性が示されているところでございます。

6の「選定理由」につきましては、選定評価委員会において申請内容を管理運営の基準等に照らし審査した結果、現在の経営及

び財務状況について安全性に懸念があるような事項がないこと、各審査項目についても管理運営の基準を満たしていることから、公益財団法人千葉県教育振興財団は、千葉県生涯学習センターの管理を適切かつ確実にを行うことができるものと認められたためでございます。

続きまして、7の「選定評価委員会の答申の概要・審査結果」につきましては、指定管理予定候補者とすべき者として、公益財団法人千葉県教育振興財団。指定管理予定候補者の選定理由につきましては、申請内容、管理運営の基準等に照らし審査した結果、公益財団法人千葉県教育振興財団は千葉県生涯学習センターの管理を適切かつ確実にを行うことができるものと認められるとしております。

なお、選定評価委員会の意見として、提案書に記載された目標値を上回る稼働率を目指し、今までにはないような新たな取り組みを講じる努力をすること、部屋ごとに稼働率、目標値を設定するとともに各部屋の課題を挙げ、それらについての対策を早期に行うこと、サイバー攻撃等を含めた情報流出への対策を講ずることの3点が挙げられております。

8の「教育委員会指定管理者選定評価委員会委員構成」につきましては、記載のとおりでございます。

9の「指定管理者の概要」についてですが、設立時期は平成7年4月、基本財産2億1,500万円、従業員数84人でございます。主な事業内容は、市民の学習ニーズに対応した講座の開催等生涯学習の振興を図るための事業、美術展覧会の開催等市民文化の発展に寄与する事業、埋蔵文化財の保護及び普及啓発等郷土意識の醸成を図るための事業でございます。

なお、主な施設管理の実績につきましては、記載のとおりでございます。

以上でございます。

委員長 ありがとうございます。

それでは、審議に移りますけれども、質問等を含めまして何かございますでしょうか。

これは、現在もこの財団がやっていて、引き続きということになるわけですね。

いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、ご質問もないようですので、議案第115号「指定

管理者の指定について」を原案どおり可決したいと考えますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。（「異議なし」の声）  
ご異議ないようですので、原案どおり可決いたします。

#### 議案第114号 平成27年度補正予算について

委員長 議案第114号「平成27年度補正予算について」、学校施設課学校環境改善担当課長、生涯学習振興課長、説明をお願いします。

学校環境改善担当課長 議案第114号「平成27年度補正予算について」を説明いたします。

本議案は、平成27年度補正予算について、市長に意見を申し出るため、千葉市教育委員会設置規則第8条第6号の規定に基づき、議決を求めるものでございます。

まず、1の「補正理由」ですが、平成28年度に予定していた学校施設の環境整備事業及び非構造部材等耐震対策事業につきまして、国庫補助金の追加内示を受け予算措置を前倒しするものでございます。

2の「補正予算額」は17億8,300万円で、財源は記載のとおりでございます。

3の「補正予算の内容」ですが、学校施設の環境整備については、補正額は16億9,600万円で、外壁改修の工事を16校で実施するものです。非構造部材等耐震対策事業については、補正額は8,700万円で、校舎3校で工事を行うものです。

なお、いずれの工事も完了が翌年度となりますことから、全額繰越明許費をあわせて設定するものでございます。

対象校の一覧を添付しております。

説明は以上でございます。

生涯学習振興課長 それでは、114号の補正予算につきまして、生涯学習部分を説明いたします。

本議案は、平成27年度補正予算について、市長に意見を申し出るため、千葉市教育委員会組織規則第8条第6号の規定に基づき、議決を求めるものでございます。

生涯学習部分の補正予算についてですが、生涯学習センター施設管理運営につきまして、平成22年12月28日付総務省自治行政局長通知の「指定期間が複数年度にわたり（中略）指定管理者に対して委託料を支出することが確実に見込まれる場合には、

債務負担行為を設定すること。」を踏まえ、債務負担行為を設定するものでございます。

なお、設定期間は平成28年度から平成32年度までの5年間、限度額は28億120万9,000円でございます。

説明は以上でございます。

委員長 ありがとうございます。

それでは、審議に移りますけれども、質問を含めて何かございますでしょうか。これは、よろしいでしょうか。

それでは、ご質問もないようですので、議案第114号「平成27年度補正予算について」を原案どおり可決したいと考えますが、いかがでしょうか。（「異議なし」の声）

ご異議ないようですので、原案どおり可決いたします。

委員長 それでは、次に、報告第13号にかかわる審議に移りますが、事務局職員につきましては、あらかじめ指定した職員を除き、それ以外の職員の退出をお願いいたします。

（あらかじめ指名した者以外の事務局職員、退出）

委員長 改めて審議を再開いたします。

#### 報告第13号 県費負担教職員の処分について

委員長 教職員課長、説明をお願いします。

教職員課長 県費負担教職員の処分につきまして、次のとおり臨時代理により処理いたしましたので、ご報告をさせていただきます。

処分者は、●●中学校、●●●●教諭（24歳）で、減給10分の1、一月の懲戒処分といたしました。

処分理由といたしまして、被処分者は10月2日午前8時30分から職員室のパソコンで作業していたが、USBメモリーを挿入したまま席を離れ、別室で他の教諭と学年の作業を行いました。その後、午前11時ごろ別室の作業が終わり、職員室のパソコンのUSBメモリーをとりに戻ったところ、USBメモリーがないことに気づき、身の回りを探したり数人の職員へ聞き取ったりしましたが見つかりませんでした。

この紛失してしまったUSBメモリーには、当該校の生徒の成績、名簿関係や前任校の生徒名簿、成績関係の個人情報が多数含まれていたが、パスワード等によるロックや暗号化はされていません。

このような行為は、学校教育に対する市民の信頼を損ね、その

職の信用を著しく傷つけたものであり、教育公務員としてまことにふさわしくない行為であり、地方公務員法第33条に違反し、同法第29条第1項第1号及び第2号に規定するものと認め、処分したものであります。

なお、当該校の校長及び前任校の校長につきましては、管理監督する立場にありながら指導を欠いたとして、文書訓告といたしました。

続きまして、裏面をご覧ください。

被処分者は、●●中学校、●●●●教諭（28歳）で、減給10分の1、一月の懲戒処分といたしました。

処分理由といたしまして、被処分者は10月7日（水曜日）午前11時30分に、通知表等の作業を行おうとしたが、USBメモリーがないことに気づき校長へ報告いたしました。

前日の6日（火曜日）に職員室内のパソコンに学校用USBメモリーを挿入し、通知表作成の作業を行った後、校外へ持ち出した可能性もあり、翌日の7日（水曜日）にかけて探したものの発見できなかったことから、行動範囲であった墨田区の交番へ遺失物届を提出いたしました。

この紛失してしまったUSBメモリーには、当該校の生徒の成績や行動の記録、所見等の個人情報が含まれていましたが、パスワード等によるロックや暗号化はされていませんでした。

なお、当該校教諭については同じく、前の事例と同じように文書訓告といたしました。

今回の不祥事が続いたことから、10月21日付で教育長名により、個人情報の適正な取り扱いについての文書を通知するとともに、同日に開催されました校長会運営委員会において、教育長より直接訓示のほうが行われました。今回の事案を重く受けとめ、再発防止に向けて周知徹底を図ってまいりたいと考えております。

以上でございます。

委員長 それでは、審議に移りますけれども、質問等を含めて何かございますでしょうか。

委員 これはこれでいいですけれども、ちょっとお聞きしたいのは、●●さんのところで、パスワード等によるロックや暗号化はされていなかったというのは、どこまで徹底しているのでしょうか。要するに、人間だからミスはあるのでしょうかけれども、学校用の

U S Bメモリーに対するパスワード等のロックとか暗号化というのは、半分義務づけておいたほうがいいかなと。それはどこまで徹底しているかということをお聞きしたかったのです。

2点目は、本人ではなくて校長先生、当該校の前の校長先生もということですが、前の校長先生は何でしたのか、その辺をご説明いただけますか。

教職員課長 最初のほうの案件のU S Bメモリーにつきましては、これは個人所有のものでございますので、まず個人所有のU S Bであったことと、前任校の学校における個人情報を異動した先にそのまま、要するに個人U S Bですので持って行ってしまって、今回の中にそれが含まれていたということで、前任校の校長については、その異動の際に、そういうデータについて、U S Bの中に入っているものについては、全て削除するというような形の指導が徹底されていなかったということでございます。

あと、ロックや暗号化につきましては、U S B自体に暗号化がかけられるもの、ロックができるもの等があるのと、もう一つは、そのデータです。例えばエクセルのデータ自身にロックがかかるものというのがあって、それについては学校について、正直、全て統一されているものではございません。

ただし、校務用のU S Bの持ち出し等については、厳重に情報媒体管理簿のほうに、提出するとか持ち帰る際には、そこにきちんと記録して持ち帰るというふうなことについては徹底しておりますが、今回の2件目のものについては、学校のU S Bではあるのですが、慌てていたために、どこでなくしたかは正直わからない。ただし、やはりポケットの中に慌てて入れて行って、そのまま東京のほうに出てしまってなくしてしまった可能性が非常に強いということで、すぐに届のほうも提出しているということでもあります。

委員 1件目ですけれども、これは事実をそのまま読むと、紛失というより何か盗難があったような感じに読めるのですけれども、そのとき職員室の中では、やはりたくさん先生方が、余り考えたくはないのですけれども、いらっしゃったのですか。また、盗難届とかは出されていますか。

教職員課長 当日は、千葉市内の小中学校は暴風雨警報が発令されていて、一切登校しておりません。その時間帯に、業者の出入り等はありません。したがって、この校務用のパソコンが設置されているの



も職員室内ですので、残念ながら同僚がという可能性が非常に高いものかなというふうに考えております。

実際にその教諭が使った後、どの教諭が使ったかというふうな細かなことについても、全て学校のほうは調べております。あと、パソコンのほうの履歴で、USBを外した、どういう作業を行っていたかという履歴についても全て挙げているのですが、ちょっと該当しそうな教諭が正直いるのですが、そちらのほうから申告的なものは入っておらず、学校で保護者説明会を開催した際もやはりそこら辺のご指摘は保護者のほうからありまして、その保護者説明会后、西警察のほうに一応盗難届ということで提出をしております。

教 育 長 一応、本人の申告を待ったのですが、結局現れないということと、さらに、現物が見つからない限り証拠がありませんので、このような形をとらざるを得なかったということです。

委 員 職員同士の問題があつて、校長は大変ですね。

教 育 長 しかも、なくなったことがどうして伝わったのかという部分などもあり、いろいろ複雑なことがあるのでしょうか。

委 員 すみません、これ、2人の年齢を教えてくださいませんか。もしよろしければ。

教職員課長 1件目の●●●●教諭については、24歳でございます。2件目の●●●●教諭については、28歳でございます。

教 育 長 こういったものの管理について、きちんと管理職が指導しなければいけない立場だったので、校長の処分をあえてやらせていただきました。つまり、大学を出て何年もたっていないわけですから、こういうものの重みというものについては十分知らされていないということもあろうかと思えます。

委 員 使うのはうまいけど管理がね。

教 育 長 そうです。大事なものが入っているという認識が足りないのではないかという部分がありますので、校長会においても、その辺で改めて私のほうから指導いたしました。そのことも含めて、若年教員に対して指導することの内容について、これから少し考えていかなければいけないと思えます。大変申しわけございません。

委 員 現状、データの流出は全く確認されていないということですね。

委 員 長 今回の件につきましては、非常に遺憾なことであり、関係者

の方及び市民の皆様には大変ご迷惑をおかけしてしまい、誠に申しわけないことでした。再発防止に努めるようにしてください。

## 7 その他

(1) 廃車となるモノレールの車両の活用について、明石委員から意見があった。これに関し、次の通り質疑応答等があった。

明石委員 ちょっと教育次長にお願いしたいのですけれども、千葉市のモノレールが35万円で、クレーンで運ぶのに135万円かかるということです。できたら放課後子ども教室とか児童クラブあたりに、このモノレールの移動図書館じゃないけれども、置いてくれて、子どもたちがあそこで本を読むとか読書指導、千葉市として余っているというか残っているモノレールをうまく活用する。この輸送代で100万円かかるのだから、誰かいい人を探してうまく運べないだろうか。ちょうど今、市議会で予算をしているので。という案です。

中野委員長 空いているモノレールを使って、放課後子ども教室に使いたいということでしょうか。

明石委員 要するに、学校図書館の中のモノレール図書館というのをつくと、子どもが喜んで、もっともっと本を読むかなという。渋谷にありますよね。ハチ公前のところに。あそこは図書館だけではなくて、いろんな写真展もやっているのですよね。あれは非常に評判よい。いろんなふうに使える。何で100万円かかるか知らないけれども、あれをまとめてやると安くなるとか、そういういい業者がないかなと思ったりして。社会貢献、千葉市に貢献するという。

森教育次長 モノレールの車両はモノレール株式会社の資産でして、千葉市の資産ではないのです。ただ、会社は千葉市が出資しておりますので、安く売るのであれば、場所もありますけれども、そういう話は持っていける可能性はあります。あちらが乗ってくればですけども。

明石委員 ペンキ塗りはボランティアで塗りかえればいいのだからね。

森教育次長 ちょっと話してみます。市のOBも行っておりますので。

明石委員 広い、芝生の上に。

志村教育長 みんなが集まれるところでないとだめですね。

和田委員 集まってほしいところがいいですね。加曽利貝塚とか。

明石委員 それも1つは。

小西委員 動物公園はリニューアルしますので、動物公園のところにもいいと思いますけどね。

明石委員 あそこは近いから。

小西委員 そうですね。

森教育次長 順次車両も新しくしていくそうなので、これからもまた余剰車両が出てくるかと思います。

(2) 第12回定例会は、事務局において日程を調整の上、開催日時を決定することとした。

## 8 閉会

中野委員長より閉会を宣言